

第1節 資料館における展示・情報公開活動

1. 第41回企画展『古墳時代の技術革新～山口県の初期須恵器～』

平成29年度に吉田構内(吉田遺跡)で行われた発掘調査で古墳時代中期中ごろの竪穴式住居跡を4棟検出し、そのうちの1棟から「初期須恵器」と呼ばれる出現初期の須恵器の高坏と甕が出土した^{註1}。山口県内では初期須恵器の出土例は限られており、希少性の高い遺物の一つといえる。その成果を受けて、山口県内での初期須恵器の出土例を集めてその様相を概観する展示を企画した。

展示は須恵器がもたらした土器製作技術の画期性に着目して、須恵器出現前後で分けた視点をとった。前半は、縄文土器からはじまった、須恵器出現前までの土器の種類とその製作技術について解説した。後半は、須恵器製作によって新たに採用された技術や、それまでの土器との違いについて解説し、山口県内で出土した初期須恵器の事例について紹介した。

初期須恵器の展示品については、山口県内で出土が確認されている18箇所の遺跡から、ある程度の大きさが残っているものや復元されているものを抽出した。(財)山口県埋蔵文化財センターから朝田墳墓群^{註3}・下右田遺跡・御屋敷山遺跡・逗子南遺跡・平井遺跡・用田3号墳、山口市教育委員会から西遺跡、下松市教育委員会から常森1号墳の資料を借用して、吉田構内で出土した初期須恵器とともに展示した。各機関のご協力に改めて感謝したい。

展示期間は令和元年8月5日(月)～10月26日(土)で、吉田地区のオープンキャンパス開催日である8月10日(土)は臨時開館し、展示のクローズはホームカミングデー開催日に合わせ、会期中670名の方々に観覧いただいた。

【註】

- 1) 横山成己(2022)「福利厚生施設新営工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成29・30年度—』, 山口
- 2) 企画展開催時の確認数による。
- 3) 朝田墳墓群第Ⅰ地区第2号円形周溝墓、同第Ⅲ地区第10号墳、同第Ⅱ地区第13号墳



写真1 企画展ポスター



写真2 展示の様相

3. 令和元年度刊行物

1. 『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』

令和元年度は、平成27年度に実施した資料館活動報告と構内遺跡発掘調査概報を所収した年報を刊行した。

活動報告としては、展示・情報公開活動として山口県立山口博物館との連携協力協定を締結して開催した企画展示と講座のほか、2件の展示活動と5件の当該年度刊行物を掲載した。社会教育活動としては、一般を対象として開催した公開授業1件を掲載した。

発掘調査に関しては、本発掘調査1件(吉田)、予備発掘調査1件(小串)、立会調査17件(吉田15・白石2)の成果が掲載されている。本発掘調査1件は、本学に新設された国際総合科学部の校舎改修に伴うもので、分布は希薄であるが弥生時代とみられる遺構を複数検出したことから、学内協議により工事の設計変更が行われ、遺構は現状保存された。

そのほか、横山による「館蔵品調査報告－古墳時代から平安時代の遺物－」と題する付篇を所収している。

2. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第30号『てらこや埋文』

平成18年(2005)より刊行を開始した広報誌であり、当初季刊で刊行していたが、平成23年度以降は年度末1回の刊行となっている。巻頭頁は山口県立山口博物館との共済事業「古代ウォーク」の実施報告を、2頁には発掘調査成果速報を、3頁には展示活動を掲載した。4－5頁は平成28年度より山口県が「サイクル県」を称し始めたことを受け、山口大学吉田キャンパスから秋穂半島に所在する兜山古墳、美濃ヶ浜遺跡に至るサイクリングコースを示し、6頁に両遺跡の紹介記事を掲載した。7頁には「資料館の一品」として、小野忠熙氏により採取された多々良廃寺(防府市)の軒丸瓦を紹介している。

当館の刊行している年報と広報誌はそれぞれ山口大学学術機関リポジトリ「YUNOCA」(<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>)と山口県地域学リポジトリ「YOOKE」(<https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/ja>)に所収されており、当館Web「刊行物」からも閲覧可能となっている。



写真5 令和元年度埋蔵文化財資料館刊行物